

東京  
都  
宅  
地  
建  
物  
取  
引  
業  
協  
會  
支  
部

昭和 4 2 年  
4 月 号 通 信  
第 4 0 号

同  
舟

昭和四十二年四月十八日発行  
発行者 東京都宅地建物取引業協会  
府中支部  
発行責任者 高野 豊次

事	記
一、編集後記	一、第二回支部総会
二、宅地建物取引主任者資格試験決定	二、第二回支部理事会
三、加藤嘉重君の死をいたむ	三、支部長再任挨拶
四、講習会及び模擬試験	四、同舟の編集を再び引受けるに当つて
五、府中地図の頒布	五、私見
六、消息	六、白川郷
七、桜の話	七、桜の話
八、消息	八、消息
九、府中地図の頒布	九、府中地図の頒布

第二回支部総会開催

と き 昭和四十二年四月七日午後四時より  
と ころ 料亭 大國  
出席者 四十三名 外に委任状提出 三名

A 総会次第

- 一、開会の辞 司会 加藤武君
- 二、支部旗入場 旗手 平井進二郎君
- 三、支部長挨拶 山村馬太郎君
- 四、総会議長選任 当選 山村馬太郎君
- 五、書記及び議事録署名人指名 書記 森藤綱治君

議事録署名人

関谷鉄之助君  
朝倉静男君

議案

第一号議案

昭和四十一年度事業経過報告

説明者 辻金吾君

第二号議案

昭和四十一年度決算報告

説明者 横ヶ峠優君

第三号議案

支部規定及び内規改定の件

説明者 辻金吾君

第四号議案

昭和四十二年収支予算案の件

説明者 横ヶ峠優君

第五号議案

昭和四十二年度事業計画案の件

説明者 辻金吾君

七、部長及び本部委員の昭和四十一年度経過報告

指導部長 結城等君

綱紀委員 山岸正治君

八、感謝状贈呈 山村馬太郎君外 八名

九、地区選出による支部新任理事発表 発表者 山村馬太郎君

一〇、第一回新任理事会の開催

支部長選挙(別室にて行ふ)

支部長当選発表 鈴木喜久治君

一一、新任支部長及び副支部長の挨拶

支 長 山村馬太郎君

副支部長 辻金吾君

発 声 五島徹夫君

結 城 等 君

一二、万才三唱

一三、閉会の辞

一四、懇親会

B 会議の模様概記

一 第二号議案に關し

○昭和四十一年度雜収入と支部旗購入について

平井進二郎君より

○三多摩協議会費負担について

加藤武君・結城等君の兩名より

○昭和四十二年度本部納入金と支部運営費の關連について

関谷鉄之助君より

○昭和四十二年度事務費激増について

関谷鉄之助君より

右の通り質疑又は、提案があり、議長並に担当理事より夫々応答があつた。

二 第三号議案に關し

○府中支部規定を、府中稲城支部規定に改正方を

関谷鉄之助君・加藤嘉重君の兩名より

○府中支部内規中、寄附金とあるを賛助金に訂正方を

内山一彦君より

○相談役の任命について

平井進二郎君・栗山新之助君

内山一彦君より

三 第五号議案に關し

○不動産会館設立について

加藤武君・結城等君の兩名より

右の通り質疑、提案又は、意見の開陳があり議長並に担当理事より夫々応

答があつた。

四 新任役員の顔ぶれ (敬称略)

支部長 山村馬太郎

副支部長 辻 金吾

支部理事 横ヶ峠 優

支部理事 結城 等

同 平井進二郎

(以上再任)

支部理事 加藤 武

支部理事 吉野亥之太郎

同 栗山新之助

同 加藤友三郎

同 加藤嘉重

同 山岸 正治

同 芦川正吉

同 原 常夫

(以上新任)

支部監事 鈴木 喜久治 (新任)

以上の通りで会議は終始活況を呈した。

尚、懇親会は例により歌なども出て賑い又、八千代信用金庫府中支店長の  
来賓もあつて盛会であつた。

第二回支部理事会開催

と き 四月十四日午後四時より  
 と ころ ダイワ不動産

出席者 平井 加藤(友) 栗山 栗原 芦川  
 山岸 辻 山村 加藤(武) 吉野  
 結城 横ヶ峠 加藤(嘉)代(出口)  
 各理事 鈴木 監事 高野

協議及び報告事項

(イ) 相談役を置くの件

山村支部長より過日の総会に於て賛成を得た、当支部に相談役を置くの件は同舟編集者・高野豊次に指命したき旨諮問に対して一同異議なく可決し本人も又、これが、就任を受諾した。

(ロ) 新任役員の担当部門決定の件

山村支部長の指命により新任役員の担当は左の如く決定した。

総務	辻 金吾	企画調査	加藤 武
経理	吉野亥太郎	法務	栗原 常夫
組織	加藤友三郎	報道出版	鈴木喜久治
指導	結城 等	厚生	平井進二郎

(ハ) 本部常務理事廃止に伴う代議員決定の件

従来の本部常務理事会が廃止せられ理事会となり、従来の理事会が、代議員制度となる。

代議員は次の如く決定した。

綱紀	山岸正治	広告審議	山村馬太郎
監察	横ヶ峠 俊	調停	加藤 嘉重
相談所	芦川正吉		

山村馬太郎 辻 金吾

(ニ) 本部総会代議員の件

本部総会に出席を要する代議員数は当支部は十一名と決定につき役員の内より業務の繁栄をみ計し適宜十一名が出席することとした。

(ホ) 本部長及び副会長選出の件

このことに関し山村支部長より諮問ありたるも支部長に一任することに決定した。

(ロ) 会費徴収に関する件

当支部会費七百元、支部運営費三百円計千円は六ヶ月分宛徴収することに決定した。

(ト) 支部業者名簿作成の件

支部規定改正の暁に於て、当支部業者名簿を作成のことに決定した。

(イ) 従業員手帳に関する件

従業員手帳は、業協会が法人となりたる時に於て、改正の手筈にして、概ね六月頃新規のものが、交付見込の旨、辻副支部長より報告あり。

(ロ) 懇親旅行の件

春季懇親旅行は、左記の計画により実施することに決定した。

行先 長野県別所温泉

日時 五月二十二日より二十六日の間を選ぶ

会費 一人当り四千五百円の見込

### 三 提案事項

吉野理事より左記の提案があり、善処することとなつた。

(イ) 支部を表示する看板の設置方

(ロ) 府中市開発計画委員三本木区画整理審議会委員等、吾々に密接な関係のある委員会には、是非とも支部業者を指命願う様、府中市長及び稲城町長に申請方

### 支部長再任のご挨拶

山村馬太郎

今回私が支部長に再任され、お引受け致しました。

顧みれば組合時代の理事長を一年と引続き支部となつての一期、合計三年の理事長又は、支部長を務めさせてもらいましたが、これと云う功績もなく、今、又支部長をお引受けしましたことは実に汗顔に勤えぬものがあります。

然し乍ら私は真面目一筋に日夜組合又は、支部の運営に微力を尽した積りでありまして、この気持は今後も尙変わることがないと思ひます。

いよいよこの四月からは、協会も法人格を持つようになり、従来とは更らに業務が多忙になることが予想されますので馬に鞭打ち支部のため、会員のために渾身の努力を致したい覚悟であります。

勿論努力すると云つても、私独りの活動は自ずと限界があり、従つて副支部長を始め理事諸君延いては会員全体のご協力が無いことには円滑な支部の運営が期せられませんので従来より一層の御協力をお願いしたいと思います。

唯今後の任期、二年の内には色々の事態が発生するのではなからうかと思ひますが各位よりのお智恵を拝借するなりご指導を受けるなりして、万全を期したいと思つております。何にしましても、会員の和が第一と思ひます。お互い手に手をとつて業務に精進しようではありませんか。

茲に簡單乍ら支部長再任のご挨拶を申し上げ併せて今後のご指導とご協力をお願いする次第であります。何卒よろしくお願い申し上げます。

### 同舟の編集を再び引受けるに当つて

高野生

支部通信紙同舟の編集については再三バトンタッチをお願いしたところでありましたが、これを引受けてくれる者もなく洩々乍ら私が、従来通り編集をすることに致しました。毎々拙文やら駄筆をつらねて気にはしていますが、又一つ勇気を出し心気一転ゆくところまでゆく覚悟で編集を続けることに致しました。

これは、余計な話しだがこの間、某中学の先生が私の印刷所に参り転任の挨拶状を頼みましたので、原稿はと申しますと実は書いたことがないので適当に作つてくれという。中学の先生でこれなんだから、言うは易く書くはむずかしいことかもしれない。

そこで吾支部の中には、同舟を非難する者もあるし、一方その労をねぎらつてくれる人もあるが、非難する人こそ中学の先生と同様、書いたことがない者ではなからうか。

尤も非難も非難だが同舟を読まない会員さえあると聞き洵に残念に思います。余り長文でもなく吾々が知つておきたい理事会の模様なども、のつておりますので会員としては非愛読してほしいと思います。

他の支部は、会員数も多いせいもあるかも知れないが、毎号立派な活版ずりで会員の記

事も、次々と掲載されております。府中支部は会員も僅か五十四名で、二百名、三百名の会員を擁する他の支部のまねは出来んとしても自分達の同舟であることに思いをいたされ、どんだん投稿をし愛読を願ひそして育成して頂きたいと存じます。

私も片手間にやることなので時には、誤字、脱字があつたり掲載してほしいことが抜けたりして一部の人が非難しておる様であります。かゝる事柄は卒直に直接編集者に申し出て下されば訂正もし、加筆も致します。この点編集者と隔離せぬ様、願ひたいものです。私としては、同舟を書くことは特別難儀とも思いませんので、みんなが盛りたてて下さる心構えがありさえすれば喜んで微力をつくしたいと思つております。

何卒同舟は会員の広報紙でありくさびともなる通信紙でありますことをおわすれなく、御挨拶を兼ねお願い申し上げます。

盲言を多謝

私見

高野生

第二回の支部総会で、府中支部の名称を、府中稲城支部に改定方、関谷、加藤（嘉）の両氏より提案があつた。

このことについては業協会設立当時にも、稲城業者より質問があり当時本部の意向により府中支部とした。旨の説明があつた様に記憶するが、今回重ねて稲城業者より提案があつたのは諸種の事情から、よくよくのことと認められ無理からぬものと元分推察が出来る。

然も組合時代は、府中稲城の名称が使われておつたので、尙更らその感を深くしておるにちがいない。

茲で、府中とするか、府中稲城とするかの利害、得失、その他事務処理等の關係を考えて見るに稲城をつけ加えることにより特に支障を来たすと思はれる事項は毛頭なく、これと反対に稲城業者とすれば、稲城の名称を入れることにより取引上は勿論、四囲の事情から肩の狭い思いをしなない丈でも大いに業績に影響するものと考えられる。

所謂安来節のうたの文句ではないが、稲城の文字を入れたとしても、一向に、荷物にはならないと思われるので、稲城業者の希望を入れ、この際、府中稲城支部の名称に改定すべきものと考えられる。

若し夫れ協会本部に於て依然理由なき理由を主張するとせば反省をうながすに又やぶさかでなく早急に名称の改定方を業協会本部に申込むべきではなからうか。

### 白川郷 (統一) 高野生

過ぐる日私は、本紙に白川郷の記事を五回に亘つて連載したが、又思い出のまゝを断片的に聊か追補することとした。

私が、奥飛驒の役署へ赴任したのは、今から三十年前で、当時はバスも通つておらず殊に赴任の時期が丁度三月の中頃であつたのでここ一帯は、未だに丈余の積雪におおわれて

いた。

そこでこの白川郷へ行くには二つの道がある。その一つは、飛驒高山から二つの峠を越えてゆくものと、もう一つは、あの郡上踊りで有名な郡上八幡から、ひるが野峠を越えて白川郷に入るものがある。いずれも積雪が多いので赴任は峠の少ない方を選び、ひるが野峠をこえることにした、尤も途中まで役署から馬櫓を持つて迎えに来てくれたのでその馬櫓に乗ることゝしたが雪の上の馬櫓なんぞに乗ることは生れて始めてなので、こわごわ乗てみたが、案の定気持の良いものではなく途中二度三度転覆して生きた心地はしなかつた。

そして、いよいよ例のひるが野峠に差ししかつたが言葉通りのひるが野であつて寂寞たる一望の広野である。そして道筋には始めてみる白樺の林が林立し、行けども行けども一軒の小屋さえ見つかからないのには、一層不安となり一体どこえつれて行かれるのかと思つた。

成程こうした感じをするのは、私独りではなくこの時まで来て辞職願を出したという先輩もあると聞き称して辞職峠の異名があることも聞かされた。

こんな淋しいところではあるがいよいよ役署の所在地へ着いてみると署員一同が家族の様に出迎えてくれ、その晩は呑めよ歌えよの歓迎ぶりである。そして着任して始めて知つたのだが、こゝ白川郷では役所らしいものは巡査部長の派出所と役場があるだけで管林署は唯一つの官庁である。然も村えお金を落すのは管林署を置いて他にはなく、従つて官員様々で吾々を大事にするのも無理からぬところと思えた。然も人情はこまやかで私達の顔をまともに見て話しをする横着者は一人もなく少々無理だと思ふことでもお願いさえすれば易々話々として聞いてくれたものである。



或冬の日である、スキーにのつて帰る途中一休せんと、とある一軒屋にとびこむと、どこの誰ともわからぬのに洋服を着た旦那とみるや、いろりをたき、手持ち少ない餅を御馳走してくれた。勿論今の客は誰であつたか聞こうともしない純朴さである。もう一つ面白いことがある。こゝ一帶は四六時中人に会えば必ず「御苦労様」と言葉をかけるが、これが吾々のお早よう、今晚わに相当するもので、署の若い者が娘のところへ夜中忍びこみ朝帰りをするのを野良から帰つてくる娘の父が見て「御苦労様」と丁寧に挨拶をするのだから他愛もない話である。

(以下次号に)

## 桜の話

高野生

ことしは陽氣の加減で東京近辺の桜は一斉に四月早々に花を付けたが何んといつても桜は四月の花であり、わが国の国花である。

敷島の 大和心を人とはば

朝日に勾ふ山桜花

と余りにも知れわたつた古歌ではあるが、実際桜は大和人の氣性に最もふさわしい花であり吾国を表象する花の一つでもある。

尤も桜といつても吾国にはざつと九種類ほどあるが、昔から人にしたしまれなじまれてきたものは矢張り「山桜」と「染井吉野」で一般の庭先や街路に植えられてあるものは殆んど染井吉野が多い。

山桜と染井吉野の差を一口に云えば、染井吉野は花が先に満開し次に葉が出るが山桜の方は葉が先に花が後に付く、それで出づ齒の人をよく山桜と異名する者もあるが、その理由は、葉(齒)が先に出るからである。

花の名所、吉野山の桜は大部分染井吉野であるがこれは吉野山に自生したものではなく染井と云う地名の植木屋が在来の桜を改良して作りあげたものを吉野山に植えたので、染井吉野と名付けたものと聞く。

東京近辺では、小金井の桜も有名だがこの桜は山桜で今は、寿命がきて大万枯死の状態にある。一体に山桜にしても染井吉野にしても大抵五〇年から七、八〇年の寿命で、他の樹木に比べれば割合に短命ともいえる。

然し山へ行くと相当年月を経た大木の山桜もあつてそれが新緑の中にあちこち浮きぼりした様に一面に花をつけたその風情はなんとも云い難い景観である。

花見するのは染井吉野で、本当の日本の風情を味えるものは山桜であろう。

消息

### ○新規会員入会

今回めぐみ不動産(代表久保田恵子氏)が新規入会した。

(これで会員は五十四名となつた。)

○新店開業

稻城末広不動産（代表取締役吉田光宏君）は茅ヶ崎線番田駅前に新社屋を建設、相模原一帯の開発に当ることになり、四月七日開店披露宴が同地花屋料亭に於て開催された。出席者は五十余名で洵に盛大であつた。

○当支部、元会員小林定吉氏は、最近病状悪化の様様である。

府中地図の頒布

○府中市、都市計画図無料配布

今般府中開発社長、吉野亥之太郎氏の肝入りで府中市都市計画図が入手出来たので各会員に無料配布した。因みに経費は支部負担である。

○府中地図並びに府中公図の入用を万へ

三千分ノ一府中地図 十一枚一組 価一、九八〇円

府中公図 四枚一組 価 八〇〇円

右入用の向は地区内理事まで申込まれた。

取引主任者受験の講習会及び模擬試験の知らせ

講習会 五月六日―七日 九時より午後四時まで

受講料三千円 場所 芝公会堂

模擬試験 五月廿一日 九時より午後四時まで

受講料二千五百円 場所 芝公会堂

以上申込所 週間住宅新聞社

中央区銀座八一三 東成ビル

TEL (五七三) 四六四一

加藤嘉重君の死をいたむ

高野生

ついでこの四月七日のことでありました。稲城の末広土地が番田駅前に新社屋を開店したその披露宴に加藤君と私が同席しましたが、同君一流の言葉巧みなど挨拶があり、引き続き大國料亭での支部総会にも同席致しました。その折も又活発なご意見を吐露せられ、特に懇親会の席上では、都々逸か何にかを唄つて皆さんを嬉ばせ、とても愉快そうであり、見たところ健康そのものの様に思われたのにそれから十日もたぬ内突然の訃報を耳にするとはどう考えても信じられぬものがございます。

君は、府中稲城組合時代の理事として大いに活動せられ、その功績は、並々なるものがありました。今又協会府中支部の理事として再び就任なさいましたので、大いに今後の活躍を期待しておりました折柄突然のご他界は故人は勿論吾々同業の者までが実に心残りがしてなりません。

黄河東に流れて又帰らず

と古い言葉があります様に、加藤君は三十九才を一期としておしいかな若木の花の散る如く不帰の客となりました。  
そしてあの温顔と巨大な風貌はもう再び見ようとして見ることが出来ないと思えます時唯々淋しさと人の世のはかなさがしみじみと胸中に迫り目がしらのあつくなるのをどうすることも出来ません。

嗚呼 悲しいかな

と天を仰ぐ私達よりも、もつともつと悲しみ深いご父母ご家族ご縁者に心からお悔みとご同情を申し上げると共にどうか加藤君のみ霊よ、永遠に安かれとお祈りをして君の死をいたむ言葉と致します。  
四月十八日葬送より帰りて

### 宅地建物取引主任者資格試験決定

試験日 六月十一日（日曜）  
用紙配布 四月十七日より  
受付期間 五月八日―五月十二日  
受付場所 都庁第二庁舎一階  
受験資格  
(一) 学校教育法による高等学校卒業者  
(二) 宅地建物取引に二年以上の実務経験者  
(三) 建設省令の定むるところにより前二号と同等以上の知識能力を有する者

### 編集後記

- 第二回の支部総会も無事終了した府中支部の為に洵に同慶に堪えない。
- 新たに支部長、副支部長、理事及び監事に選任された方は洵に御苦労様であるが今後の努力を期待して止まない。
- 何にしても会員の和が第一である。和を崩す様な人が出ないことを祈念するのは、私独りではあるまい。
- 今月から通信紙の体裁を若干変ることとした。これ偏りに会員の皆様に一人でも多く読んで頂きたいためである。
- 私見の欄を作り毎月思い付いた私見を書くことにした。これは私丈が書くのではないので会員諸公も大いに投稿願いたい。
- 人と店は今月は記事が輻輳したので掲載を見合わせることにした。

昭和四十二年四月十八日夜しるす。

高野生

